

## ■ 競技上の注意 ■

審判長 伊庭洋子

本大会は、令和7年6月1日一部改定の「日本卓球ルール」を適用して実施する。  
タイムアウト制は、第2ステージ(トーナメント戦)準決勝および決勝のみ適用する。  
ベンチコーチ制は、第2ステージ(トーナメント戦)3回戦以降(最終日)のみ採用する。  
選手およびアドバイザーは、試合でのルールとマナーを厳格に守ってください。

### 1. 競技方法

#### ・男女シングルス

**試合形式** 男女とも、第1ステージ(リーグ戦)を行い、各リーグ上位2名の選手が、第2ステージ(トーナメント戦)に進出する。全ての試合を5ゲームマッチ、3ゲーム先取とする。

**審判方法** ・第1ステージは、同リーグ内での相互審判とする。

- ・第2ステージの第1試合は、第1ステージの選手が審判を担当し、以降の試合は、敗者審判とする。2回戦(1~16コート)の敗者は、翌日の3回戦の審判を行う。
- ・各審判担当者は、日本卓球協会の審判法を用い、ラリー中の判定に集中して努めること。
- ・各試合では練習の前に両競技者のラケットを確認し、じゃんけんを実施しサーブ、レシブエンドを決定し、1分間の練習に入ること。
- ・練習の時間計測とゲーム間の1分をストップウォッチか、60秒カウントタイマーで計測し、次のゲームを速やかに進めること。
- ・審判員は、ゲーム間に選手と雑談したり、アドバイス等をしないこと。審判員同士についても同様とする。

### 2. サービスルールのポイントについて

・サービスが、ルールの要件を満たしていると審判が確信できるようにすることは、競技者の責任であり、主審または副審は、サービスが正規のサービスであるか否かを判定できる。

### 3. ボール、ラバー、ラケットについて

- ・ボールは、日本卓球協会公認「ホワイト・3スター」40mmボール(日本卓球株式会社・プラ3スター・プレミアムクリーン)を使用する。
- ・ラバーは、ITTFまたはJTTAが公認したロゴがなければ使用できない。
- ・外国製ラケットでJTTAAのマークのないものを使用する場合は、試合開始60分前までに「ラケット使用許可願い」を審判長に提出し、許可を受けること。
- ・ラバーをラケット本体に貼る際は、揮発性有機溶剤を含んでいないものとしてJTTAが公認した接着剤のみを用いて行うものとする。
- ・ラバーの貼替は、定められた「ラバー貼替所」で行うこと。
- ・ゲーム中にラケットを誤って破損した場合は、持ち込んでいたスペアラケットかプレー領域内で手渡されたものと交換し、すぐプレーを再開しなければならない。

### 4. 服装について

- ・競技服装(シャツ、ショーツ・スカート)は、JTTAの公認マークのついているものを着用すること。
- ・同じ服装による対戦を避けるため、色・柄の異なる2種類以上の服装を用意すること。

★アンダーシャツ・ヘアバンド・サポーター等を着用する場合、日本卓球協会認定の業者のみに限る。(マーク等を完全に隠すなどすれば、他の業者のものでも使用出来ます。)指摘された者は、大会役員の指示に従うこと。詳細は、関西学連ホームページの「大会出場時の競技用服装について」で、必ず確認すること。

## 5. ラケットコントロールについて

- ・ラケットコントロール検査をマッチ前に無作為に実施する場合がある。  
提出されなかった場合は、マッチ後に行う。
- ・全ての選手には、希望すれば、マッチ前にペナルティーの科せられないボランタリー検査(自主検査)を受ける権利が与えられている。

## 6. バッドマナーについて

- ・バッドマナーには、観客に不快感を与える、または、相手選手をいらいらさせるような行為、あるいはテーブル、ネット、フェンスなどの器具を乱暴に扱うような行為、競技役員の指示を無視するなどの行為が含まれる。
- ・ポイントが決定した後は、速やかに次のサービス体勢、あるいはレシーブ体勢をとり、みだりに時間をとるようなことなく、競技のスピードアップをはかること。ただちにサービスを出さない、あるいは、すぐにレシーブの構えに入らないような行為はスロープレーとしてバッドマナーと判断される。
- ・選手によるバッドマナーに対しては、最初はイエローカードによる警告がなされるが、2回目以降は種類の異なるバッドマナーであっても、相手に得点(2回目は1点、3回目は2点)あるいは失格を含むペナルティーが課せられる。
- ・シューズの裏や卓球台を手で拭う行為は、「スローゲーム」になり、バットマナーの対象になります。すぐ次のプレーに入ること。

## 7. 試合中のアドバイスについて

- ・選手は、主審または副審による事実の判定に対して抗議することはできない。
- ・第2ステージ(トーナメント戦)3回戦以降に限り、選手は、そのマッチ開始前に主審に登録された一人のアドバイザーからのみアドバイスを受けることができる。それによって競技が遅れさえしなければ、ラリー中を除いていつでもアドバイスを受けることができる。
- ・アドバイスの違反行為は、最初はイエローカードで警告され、2回目はレッドカードが掲げられ競技領域および会場からの退場を命じられる。
- ・アドバイザーは、飛び跳ねたり、フェンスを揺らすなど、過度な応援行為は禁じます。
- ★うちわなど、鳴り物を使ったアドバイザーの応援は一切禁止します。
- 主審の警告があったにも関わらず止めない場合は、審判長の裁定により退場させられる場合がある。
- ・階上からアドバイスはしないこと。選手もアドバイスを受けないこと。また階上をあおる行為も禁止します。

## 8. 幕、旗の掲示

- ・横幕は、縦1m×横4mを最大寸法とし、文字の高さ15cm以上25cm以内のクラブ名(卓球部名)を入れるものとする。
- ・校旗、部旗は、縦1.5m×横2m以内とし、校章、またはシンボルマークは中央に入れ、縦か横表示のクラブ名(卓球部名)を入れるものとする。
- ・縦幕は、原則として許可しない。また、前項の旗を縦に長くして掲示することはできない。

## 9. その他

- ・プログラムや会場内放送により、競技日程・組み合わせ・試合予定時間・試合コート等を確認し、コートへの出場を遅らせないこと。また、開始時刻を変更することがあるため、放送には注意すること。
- ・カメラ、ビデオ撮影は、「報道」と許可された以外の方は、フロア内での撮影は禁止とする(ただし、大会登録者は可)。なお、選手自身のカメラ、ビデオでの撮影は、1台のみ許可する。
- ★競技フロア、観客席でのライブ配信は一切認めない。
- ・競技場内への飲料の持ち込みは、ペットボトル等(蓋の出来るもの)に限る。
- ・シューズ裏を拭う濡れ雑巾等は、プレー領域においての使用は認めない。
- ただし、各ゲーム間にベンチ付近での使用を認める。

以上

## ■ 大会会場内における画像、映像および音声の撮影ルールについて ■

関西学生卓球連盟(以下、「当連盟」という)は、当連盟が主体となって運営する大会(以下、「対象大会」という)の競技開催施設(以下、「会場」という)での撮影行為および撮影した画像、映像または音声(以下、「収録物」という)について、以下の内容を定めます。

### 1. 撮影者について

※このルールが適用される撮影者は以下のとおりとする。

- (1) 当連盟が認めた報道機関(新聞社、通信社、大学新聞等を含む)
- (2) 対象大会出場者、ベンチコーチ、チームの監督・コーチ
- (3) チーム帯同者、チーム・企業広報担当者、チーム・企業が外部委託した撮影業者
- (4) その他当連盟が認めたもの

### 2. 対象大会の撮影行為について

- (1) 1.-(2)は、競技フロアでカメラ、ビデオカメラ、タブレット端末などの撮影機材で自身(自チーム)の競技(試合)・練習を撮影することができる。機材設置場所は、自身(自チーム)の競技(試合)が行われるコート脇のベンチに限定し、1コートにつき1台許可する。練習を撮影する場所は制限しないが、周囲の選手の迷惑にならないよう注意すること。周囲の選手や大会運営スタッフから指摘があった場合には速やかに従うこと。なお、ここで撮影した自身(自チーム)の競技(試合)・練習の映像は、記録、研究する目的にのみ使用を認める。
- (2) 取材申請済の1.-(1)および1.-(4)は競技フロアでの撮影を認める。ただし、競技エリア内(ここでは基本的にフェンスの内側を指す)に立ち入っての撮影は禁止する。撮影機材の一部(カメラレンズの先端など)がフェンスの延長線上より内側に入らないよう注意すること。
- (3) 1.-(3)が競技フロアから競技(試合)を撮影してはならない。ただし、当連盟が認めたもの等が競技フロアに入って撮影することがある。
- (4) 表彰式・閉会式内および終了後において、大会バックボードなどの前にて撮影をするときのみ競技フロアでの撮影を許可する場合がある。なお、撮影位置は当連盟の指示に従うこと。
- (5) 撮影時に大会運営および競技進行、周囲に迷惑がかからないようにすること。  
例: フラッシュを使用しての撮影禁止、補助光の点灯および照明器具を使用しての撮影禁止。  
白色を主とした衣服や白マスクの着用を控えるなど。
- (6) 撮影にあたり、当連盟の指示に従わない場合は撮影を禁止する場合がある。

### 3. 撮影した素材の使用について

- (1) 競技(試合)を撮影した収録物を、商業目的で利用することは禁止する。
- (2) 収録物の取り扱いについて、1.-(1)は別途案内している取材要項の内容に則る。
- (3) 競技(試合)・練習の映像および音声、映像から切り抜いた画像をインターネットや各種SNSで公開することは禁止する。
- (4) 観覧席から撮影した自身(自チーム)の競技(試合)の画像をインターネットや各種SNSで公開することは認める。ただし公開する画像は、肖像使用の許可が得られていない人が写っていないものに限る。なお、肖像使用による個人間のトラブルが起きた場合において、当連盟は一切の責任を負わないものとする。
- (5) 1.-(1)が撮影した収録物を入手し、商業的に使用することはできない。  
ただし、当連盟の許可があればその限りではない。
- (6) 1.-(2)、1.-(3)が撮影した収録物を1.-(1)に提供する場合、当連盟に確認をとること。

## ■ ユニフォームについての注意事項 ■

2025年6月11日

公益財団法人日本卓球協会 用具委員会

### 【申請の流れ】

- ①申請者 → ②日本卓球協会 → ③申請者  
申請書の提出 申請内容の確認・承認 日本卓球協会承認後大会参加時は申請書を連帯し求められた場合は提示する

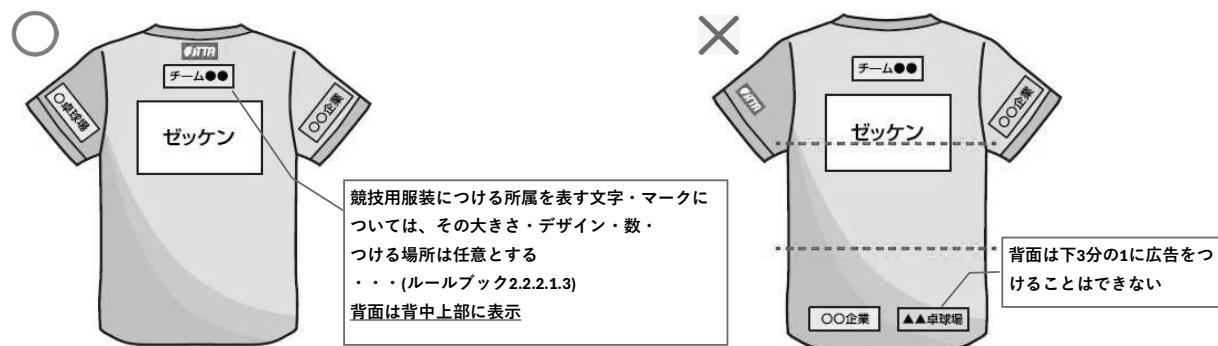
### 【ウェア前面について】

- シャツの前面・肩・側面には合計8ヶ所まで、合計面積600cm<sup>2</sup>以下、ただし前面は6ヶ所まで広告をつけることができる・・・(ルールブック2.2.5.8.2)  
※白背景・白文字(白いロゴ・マーク等を含む)の広告・チーム名等を胸元に配置する場合は合算で210cm<sup>2</sup>を最大とする



### 【ウェア背面について】

- 背面は、3ヶ所、各面積の合計が400cm<sup>2</sup>以下の広告をつけることができる・・・(ルールブック2.2.5.8.3)  
○競技者名・所属を背中につける場合には、襟のすぐ下(背中上部)に表示しなければならない・・・(ルールブック2.2.2.3)



### 【ショーツ・スカートについて】

- 前面3ヶ所、各面積の合計120cm<sup>2</sup>以下とする・・・(ルールブック2.2.5.8.4)  
※ショーツ・スカートは、前面側面のみ広告をつけることができる

